

日本人の ひたむきさ 世界が評価

1日目、私たちはIAEA（国際原子力機関）を訪問しました。原子力の在り方が見直されている今、IAEAの存在は世界的に大きいと思います。ところがIAEAの日本人職員は全体の約2%にすぎません。私は非常に少ないと感じました。政治に私情をはさむのはいいことではありませんが、唯一の被爆国としての日本の意見がもう少し取り入れられるようになれば、と思います。その日は日本人職員の方4名と



Reporter

藤島高校1年
さいとう なおき
齋藤 尚生

国際機関で働く日本人に
学ぶ視察研修会



WHOにて

8月初旬に県内の高校生を対象に、IAEA（国際原子力機関）、WHO（世界保健機関）、WIPO（世界知的所有権機関）で働く日本人を訪問し、各機関の役割と日本人の活躍について学びました。

懇談をしました。話の中で、私の予想とは裏腹に、IAEAが第一の職場である人はいないということを耳にしました。キャリアを積まないとなれない責任重大な仕事なのだと感じさせられます。

3日目、WHO（世界保健機関）とWIPO（世界知的所有権機関）を訪れました。ジカ熱やデング熱などの流行でニュースでもよく聞くWHOですが、普段は製菓などの面で活躍しています。一

国の技術が世界の技術となり、新たな進歩で救われる人が増えることは国際機関というグローバル化の大きな恩恵の一つだと思います。

一方であり耳にしないWIPOですが、オリンピックのエンブレムでも話題になった著作権や特許、商標を扱う機関として活躍しています。知的財産は形がなくとも立派な財産です。守り方にはまだまだ不十分な点もある、と聞きま

したが、技術やアイデアを守るのに欠かせないとても重要な国際機関だと感じました。

最後に、これら三つの国際機関に共通していたことがあります。それは働く日本人の中には英語が苦手だった人もいるということです。国連の公用語に日本語はありません。日本人にとって大きなハンディとも言えます。それでも日本人が世界で評価されているのは、ひたむきな態度、性格が言葉の壁を越えて外国の方に伝わっているからだだと思います。外国に飛び出すことはとてもなく勇気のあることです。けれど、大切なのは言葉だけではないのかもしれない、と今回の研修で学びました。

エネルギー とこと

原子力には、使用済み燃料の処理や放射性廃棄物の最終処分など多くの課題があるのも事実です。国や電力事業者には、これらを先送りせず真正面から向き合い、解決への道筋を示していくことが強く求められています。

福井県経済団体連合会 会長 **川田 達男**

福井県環境・エネルギー懇話会
〒918-8004 福井市西木田 2-3-1
福井商工会議所ビル 6F

▶バックナンバーはコチラから

福井県環境・エネルギー懇話会 [検索](#)

次回は**9月16日(金)**掲載予定
視察研修会に参加した高校生が
学んだこと・体験したことを
シリーズで紹介していきます。